

わがまち歴史探訪、足もとの文化遺産への誘い
ミュージアム都留からのお知らせ

レポート

勝山城の調査を終えて

—茶壺蔵調査編—

この地点は、江戸時代に将軍家御用のお茶壺を保管したと伝える、茶壺蔵の推定地として考えられてきました。

発掘調査では、柱穴や礎石が確認され、南の斜面からは尾根を東西に横断する溝が確認されています。柱穴の間隔は90cmで江戸時代の単位に換算すると半間(3尺)になります。半間の柱間は当時、蔵や倉庫で多く用いられたようです。柱穴と礎石はそれぞれ別時期の建物を構成していたと考え、柱穴で

造られた後、補修や改築によって礎石を用いたと推測されます。また、溝は斜面から流れ込む雨水などから建物を守るために設けた可能性が考えられます。遺物は角釘や煙管(きせる)が確認されています。

この地点は東を流れる桂川から常に風が吹きあげており、勝山城内では冷涼な環境にあり、茶葉を保管するには適した場所だと考えられます。また、下谷村明細書に記された「御本城より御茶蔵迄道程五十四間(約百m)」という記述は、「本城を「本丸」と読み替える」とほぼその距離は一致します。以上のことから推測すると、この地点に茶壺蔵が存在した可能性が非常に高くなってきました。

そして、斜面で確認された溝の調査を進めたところ、尾根を東西に切る、深さ約3mの堀であることが明らかになりました。堀はある時期に埋め戻されその後浅い溝として使われたことが



ミュージアム都留

開館時間 午前9時～午後5時
観覧料 一般 300円(210円)

高・大学生 200円(140円)
小・中学生 100円(70円)

※()内は20名以上の団体料金です。

休館日 毎週月曜日、第3火曜日、

祝日の翌日

問合先 ミュージアム都留 ☎(45)80008

土の層から推測できます。堀はおそらく浅野氏以前の時代に造られたものである可能性が考えられます。



礎石(そせき)
柱の土台として設置したもの

柱穴(ちゅうけつ)
地面に穴を掘って
柱を差し込んで固定した跡

増田誠美術館

現在開催中の企画展

「ムツシュ増田の生きた時代の人々」

増田画伯が愛した街パリ。パリに暮らす人々の生活の1コマを描いた油彩画やキャフェでお茶を飲みながら描いたスケッチを展示します。活き活きと暮らす人々の姿をお楽しみください。

会期 6月19日(土)～9月26日(日)

開館時間 午前9時～午後4時30分

会場 増田誠美術館(ふるさと会館2階)

休館日 月曜日、第3火曜日、祝日の翌日

問合先 ミュージアム都留 ☎(45)80008

作品紹介



『ルクサンブル公園』 油彩画(4号F)

ルクサンブル公園は、パリ市内で最も大きな公園です。子供向けの遊び場も設けられています。また、園内には数多くの彫像や記念碑、噴水があります。作品は、木陰で談笑する人々を描いています。